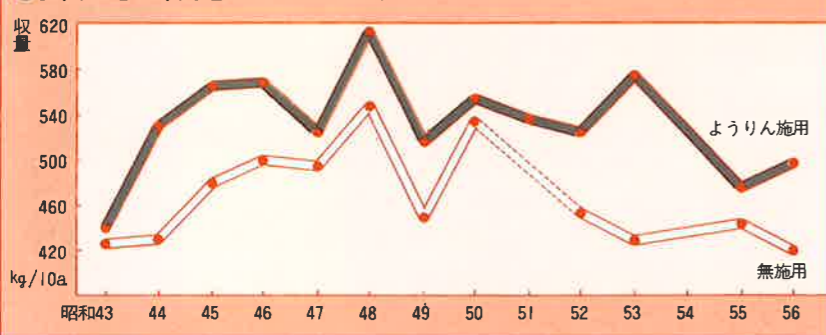


3. ようりんは 連用すれば するほどよい

毎年、ようりんを使いつづけると、高い収量をいつまでも保つことができます。

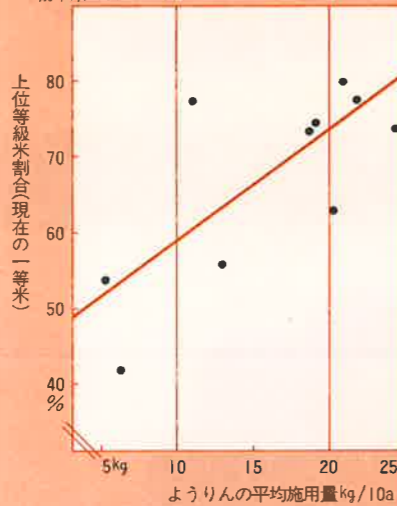
●ようりんを14年間連用して無施用とくらべると…… 水稻：和歌山県農試



4. ようりんは 作物の品質を 良くする

ようりんの持つ総合的な効果が発揮されるので、作物の品質がよくなり、1等米が多くなります。

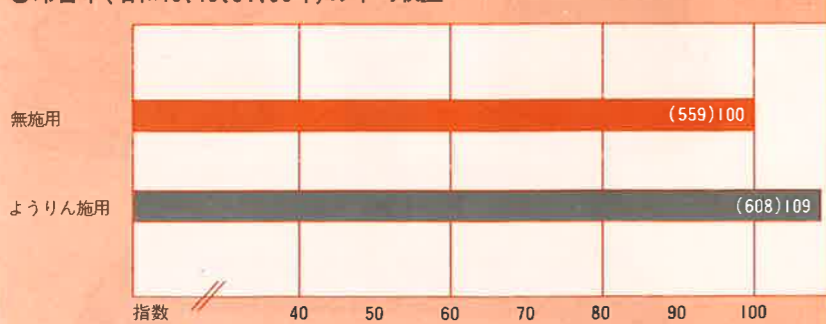
●ようりん施用量と米等級の関係 栃木県 1976-1977



5. ようりんは 冷害年ほど その効果が出る

平年なみの気温では、あまり差のないところでも、低温にあうと、ようりんの場合は減収の度合がずっとすくなくなります。

●冷害年(昭和48、49、51、55年)の平均収量 水稻：山形県農試庄内支場 ()内はkg/10a

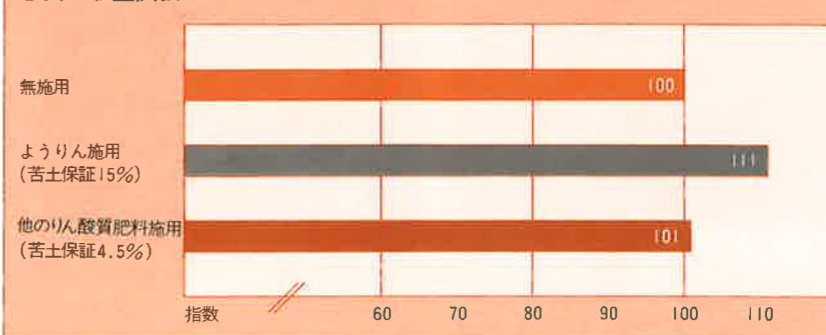


ようりんは 総合力で最高の 土づくり資材です

8. ようりんの 苦土はりん酸・けい酸 の肥効を高める

ようりんはほかのりん酸質肥料・けい酸質肥料より、はるかに多くの苦土をふくんでいるので、りん酸・けい酸のききめも高まります。

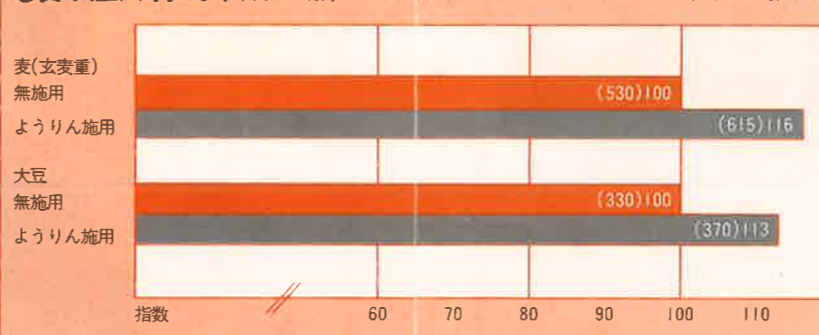
●麦の収量試験 香川県農試



6. ようりんは 転作作物にも 効果が高い

水田から畑へ転換すると、養分が流亡しやすくなって、転作作物は減収しがちですが、ようりんを施用すると、収量が増やせます。

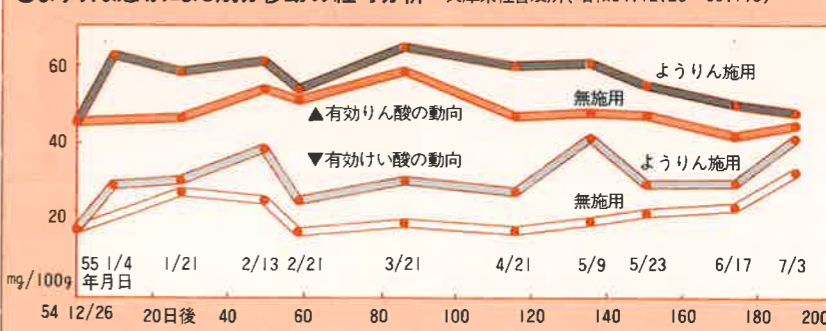
●麦・大豆に対するようりんの効果 群馬県富岡普及所 ()内はkg/10a



9. ようりんの 有効成分は 長続きする

ようりんを年内に施用しても各成分は長持ちし、作物の有効成分として利用されます。

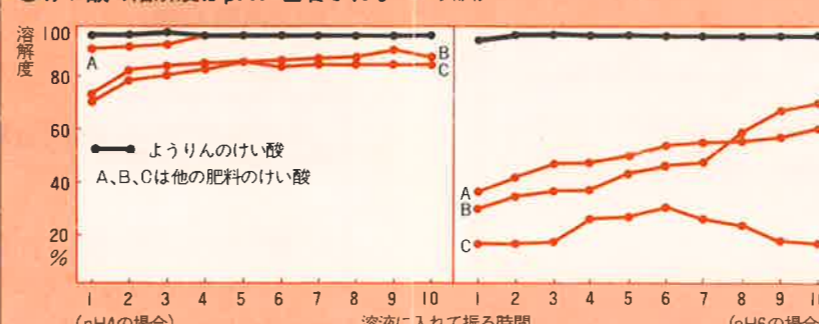
●ようりん施用による成分移動の経時分析 兵庫県社普及所(昭和54.12.26-55.7.3)



7. ようりんの けい酸は よく吸われる

けい酸のなかには、pHが高いとけい酸のものがあがるが、ようりにふくまれるけい酸は、よくとけて作物によく吸われます。

●けい酸の溶解度はpHに左右されない 京都府



10. ようりんは 有機物を 早くさらせる

稲わらなど腐熟していない有機物を、ようりんといっしょにほごすると、土中の微生物が増えて、有機物は早く腐熟するので増収につながります。

●水稻の収量試験 鳥取県(3ヵ所平均)

